

研究代表者氏名	上村 俊雄		研究組織	5人		
所属機関・部局・職	鹿児島国際大学 国際文化学部 教授		所属機関所在地	鹿児島市		
研究課題名	先史・古代社会の遠隔地交渉に関する人類史的総合研究					
研究の概要等	<p>海を越えた広域におよぶ「遠距離交易」、列島内の遠隔地交渉などに焦点をあて、先史・古代の遠隔地間交渉の実態および社会的役割・メカニズムについて解明するとともに、その人類社会における意義について考察し高次の人類史的理論の構築に寄与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 海と遠隔地交渉を鍵とする新たな研究分野を開拓し、 2) 遠隔地交渉の新視点から縄文時代後晩期社会及び弥生社会などを再検討して社会の複雑化の過程を明らかにし、 3) ブリテン、太平洋地域等の考古学的・歴史学的・人類学的諸研究と比較しながら、 4) 土器の観察と蛍光X線分析等による胎土分析や最新の調査法を積極的に導入した発掘調査などから、 5) 遠隔地交渉が社会の発展にどのような役割を果たしたかを実証的に解明する。 <p>考古学と文化財科学との真の融合が望まれているところであるが、胎土分析を目的とした蛍光X線分析装置を設置するなどして、それを本格的に実践するとともに、世界的に実践研究が望まれている認知考古学についても日本考古学の伝統を踏まえた視点で展開させる。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>上村俊雄「南西諸島出土の石鏃と黒曜石 その集成と意義」『人類史研究』10、pp.200-213、1998年</p> <p>上村俊雄「南西諸島出土の中国古銭について」『前近代における南西諸島と九州その関係史的研究』pp.3-52、多賀出版、1996年</p>					
研究期間	平成15年度～19年度（5年間）					
研究経費（16年度以降は内約額）	平成15年度 千円 10,700	平成16年度 千円 39,000	平成17年度 千円 9,500	平成18年度 千円 7,900	平成19年度 千円 7,400	合計 千円 74,500
ホームページアドレス	なし					